

WC アテネ (オリンピックイベント) 速報

関係各位

10月25日(土)AM10:00(日本時間PM4:00)前日のポイントレースが再設置され、女子スタート、タオミナが突然のDNFでパーブ(USA)がSwimを1位でフィニッシュ、その後ジルサベージ(CAN)、ヒダルゴ(ESP)、ジョディスワロー(GBR)の3人が2位グループ集団で(約20秒差)、中西は10位の第2集団の好位置でバイクに、1周目の坂でやや遅れを取り後続集団に、第一集団が13人中西含む第2集団が75秒遅れで追う。39×25が必要な激坂は選手の足に疲労を溜めていく。Runに入りミケリー(J AUS)とスワロー(GBR)の争いとなりフィニッシュ寸前でミケリーが制した。中西は第2集団からのRunとなり、トップから約4分差の25位でフィニッシュした。バイクのフレームの素材、ギア比など、ここアテネを制すにはあまりある課題が見つかった。

一方男子は、ウォルトン(AUS)が飛び出し、平野、ポリカベンコと続く。ウォルトンが一人でバイクを逃げ、2位集団は30人くらいであった。3周目にオリビエマルソー(スイス)を含めて5人が逃げる、残念ながら日本選手は反応できない。その後5人の小集団はウォルトンを吸収しハイペースで逃げる。逆に第2集団は集団が大きすぎて動きが出ない。バイク終了時には3分に広がっていた。男女ともいつもの展開とは違いバイクの強い選手がアドバンテージを取っていった。ランニングは混戦をラスムスヘニング(DEN)が制した。オルソーは4位、日本勢はトップから5分遅れで山本良介(29位)、8分遅れで西内(44位)、10分遅れで平野 司(49位)であった。バイクでの力量が、その後のランのタイムを完全に分けた感があった。

飯島健二郎